

HITOTSUBATAO

No.2

ヒトツバタゴ



長崎県生物学会対馬支部報

December

1984

ツシマヒメボタル

内野俊哉

1969年上県町佐須奈で発見され、中根猛彦氏により命名（*Hotaria tsushimana* Nakane 1970）されたもので、対馬特産種である。

これをパパリボタルとする説（佐藤）もあるが、ヒメボタルと同じく後翅を欠くので、中根・大場のホタル目録（1981）に従いたい。

くわしい生態については、研究中であるので後日発表の機会をみつきたいが、ここでは形態、分布について述べることにする。

発生・分布

対馬のみにせい息する陸性のホタルで、アキマドボタルとほぼ同じ水平分布を示す。垂直分布は、平地から標高400～500mの上頂まで分布するのが特徴である。

このことは、ヒメボタルの高地から低地までの分布状況と一致している。

出現期は5月下旬から7月下旬までで、地域的に微妙な差がみられ、また標高が高くなるにつれておそくなる傾向がみられる。このことはせい息環境のちがいが、特に気温の差によるものと考えられる。

図は、1983年～1984年の筆者の調査結果を示した。ほぼ対馬全島に分布していることがわかる。上県郡を中心に調査したので下県郡の空白が目立つがせい息していない訳ではない。今後の調査でうめていきたい。

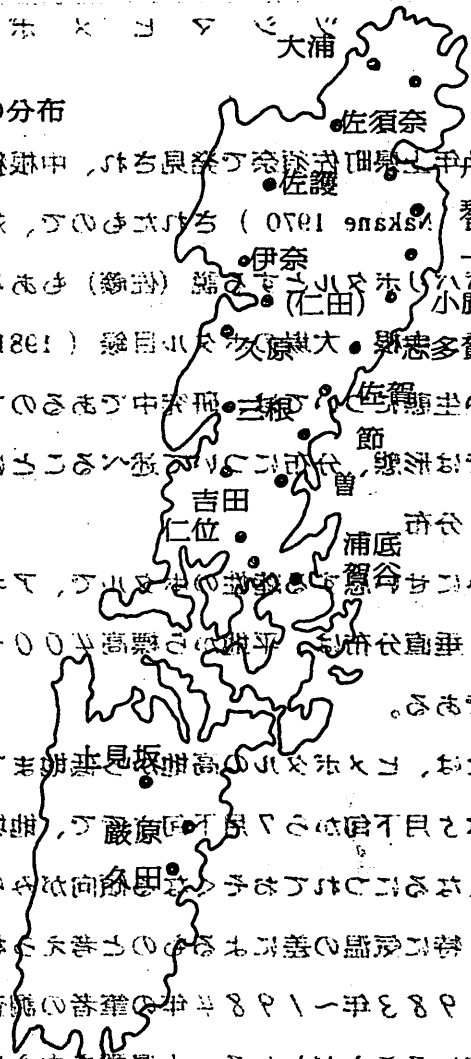
せい息環境は、スギ、ヒノキ、雑木林でクズ、カラムシ等の雑草がおい茂っているところで適度な湿度を保っていることが条件である。低地、高地との差はないが、コンクリートでかためられたがけの近くにはほとんどいない。この点、アキマドボタルのせい息環境とほぼ一致している。分布図のせい息地には必ずアキマドボタルの幼虫を見ることができた。

出現時間は20時30分ごろから22時30分ごろまでで、ピークは22

シマホタルの分布

シマホタルの分布は、本州の東北地方から九州まで広く見られる。特に、東北地方の山間部や、関東地方の奥州地方、そして九州の山間部などに多く生息している。近年では、都市部や人口密集地帯でも見られるようになった。シマホタルの生息地は、一般的に、水質がきれいな清流や、森林に囲まれた谷間に多い。また、シマホタルの幼虫は、水質汚染に非常に敏感であるため、環境指標生物としても注目されている。

シマホタルの分布は、地域によって異なる。例えば、東北地方では、奥州地方や山形県などに多く見られる。関東地方では、奥州地方や群馬県などに多く見られる。九州では、山間部や奥州地方などに多く見られる。また、近年では、都市部や人口密集地帯でも見られるようになった。シマホタルの生息地は、一般的に、水質がきれいな清流や、森林に囲まれた谷間に多い。また、シマホタルの幼虫は、水質汚染に非常に敏感であるため、環境指標生物としても注目されている。



シマホタルの発光は、雄と雌の間で行われる。雄は、草むらや木かげで発光しているが、22時前後に、雌は♀を求めて、地上1.5~3mの高さの所をフラッシュ光を発しながら10mの範囲で飛びかう。発光の間隔は80~90回/分である。草むらにひそんで居るときはグローで、時おりフラッシュ光を発する。

一方、♀は草むらで一定のグロー光を発して♂の訪れを待っている。♂の発光パターンは、配偶行動により変化をきたすことはホタル全般について

ツシマジカ

国分英俊

朝まだ暗い凍りついた道を、スピードをおとしゆっくりと車は進む。水たまりには氷がはり、車輪がのるたびにバリバリと音をたてて割れる。時には氷の上を車が横すべりすることもあり、きもを冷やされる。

ツシマジカを見ることができる場所に近づく。車をとめ、はやる気持ちをおさえ、三脚にレンズをとりつけカメラをセットする。再び車を動かし数百メートル走る。定位置にとめ、ドアをしずかにあける。外に出て、ゆっくりとまわりをみわたす。いた！ / ~2m の高さに伸びたヒノキの間にスクッと立ち上がったツシマジカの姿。その距離7~80m。立派なツノをかざし、こちらを見すえている。微動だにしない。写真をとるのにはまだ光がたりず、シャッターを切ることはできない。

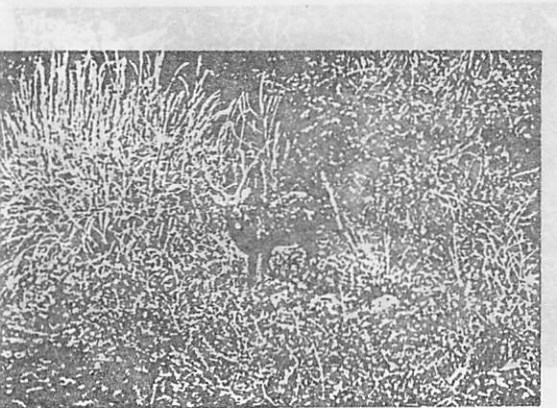
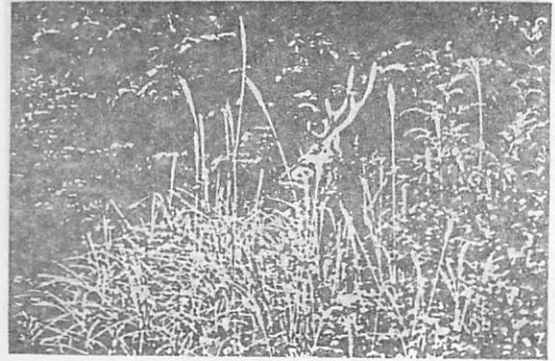
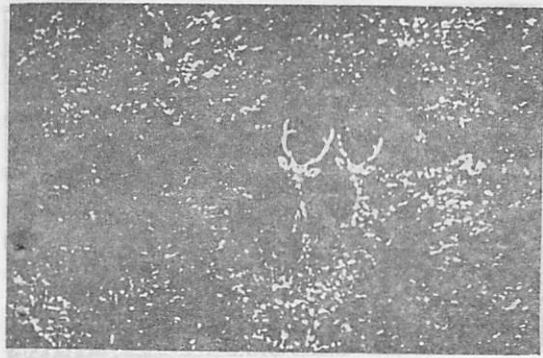
時間はすぎていく.....。

2年ほど前からツシマジカの写真を撮りに行くことがなくなった。というのも、ツシマジカの捕獲がはじまってから、行っても見ることもさえできなくなってしまったからである。

この写真は、数年間撮りためたもののうちから撮作であるが良いものをえらんでみた。すでに発表しているものも含まれるが参考として見ていただきたい。

今年は、保護区域外でのツシマジカの狩猟が認められた。大変にがにがしい気持ちで狩猟期が終わるのをまっている今日このごろである。

(巖原中学校)



ツシマジカの生態

群オス

